

令和7年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立七尾東雲高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>1 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり【わかる授業による指導】</p>	<p>① 基礎学力の定着を目標に、10分間の朝学習にしっかり取り組ませる。</p>	<p>真面目に朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%未満</p>	<p>B 評価 82% (今年度 新規) 【生徒の学校評価(12月)】 よくあてはまる 33% ややあてはまる 49%</p>	<p>今年度から朝学習の時間を5分から10分に延長し実施した。生徒が積極的に取り組めるよう学年ごとに内容を工夫して取り組んできた。1・2年生と比較して進学、就職を控える3年生の取り組みが良くなっている。生徒のモチベーションを高める内容の検討が求められる。</p>
	<p>② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。</p>	<p>生徒による授業評価（実習科目を除く）において「ICT機器を活用している」と回答する評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>A 評価 83% (昨年 = 88%) 【生徒の授業評価(12月)】 あてはまる 54.0% だいたいあてはまる 29.3%</p>	<p>生徒による授業評価では、教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は83%であった。7月の82%から若干上昇しA評価となった。クロムブック等の活用は教科によってばらつきがある。「わかりやすい授業」につなげるための道具として今後も活用方法の改善に取り組んでいきたい。</p>
	<p>③ 主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。</p>	<p>生徒による授業評価において「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が大変多い」と回答する評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>A 評価 89% (昨年 = 89%) 【生徒の授業評価(12月)】 あてはまる 52.5% だいたいあてはまる 36.0%</p>	<p>生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表をおこなう場面が多い」と回答する肯定的評価は89%となった。昨年度も89%で、高水準を維持できた。発表場面を作りにくい教科もあるが、今後も生徒が発言や発表する場を増やしていけるよう授業改善に取り組んでいきたい。</p>
	<p>④ わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。</p>	<p>生徒による授業評価において「授業を受けてよく理解できたと感じる」と回答する評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>A 評価 92% (昨年 = 93%) 【生徒の授業評価(12月)】 あてはまる 58.7% だいたいあてはまる 33.7%</p>	<p>生徒による授業評価において、「授業を受けて理解できたと感じる」と回答する肯定的評価は94%であった。昨年度は93%で高評価を維持している。習熟度授業等、「わかる授業」の推進が上手く機能し、授業の改善や工夫が進んだと考えられるので、継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>「わかる授業」づくりのための工夫や授業改善について、今後も取組をすすめてほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>朝学習の実施時間、学習内容の検討やICT機器の効果的活用、生徒が発言や発表する場を増やす授業改善に取り組んでいく。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかり考え、進路実現に向けて取り組むよう、各行事の事前・事後学習を充実させる。	学校の進路説明会、企業見学等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 86% (昨年 = 89%) 【生徒の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 32% ややあてはまる 54%	1年生が81%、2年生が88%、3年生が89%となっている。全学年で昨年比減となった。1年生は学年と連携し、進路学習をより強化していくことが必要である。2,3年生は微減したが、高い数字を維持していて、進路学習が進路意識向上につながっている。来年度も生徒のニーズに応えた活動を企画していきたい。
	② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 評価 79% (昨年 = 82%) 【保護者・生徒の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 30% (保27%、生33%) ややあてはまる 49% (保56%、生42%)	生徒の肯定的評価で1年生が61%、2年生が77%、3年生は85%となっている。学年が上がるごとに上昇するのは例年通りだが、1年生の評価が低い。親子で進路について話すきっかけ作りをしていくことが必要である。来年度も保護者と生徒のコミュニケーションを深める取り組みをしていきたい。
	③ インターンシップ前に、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返し徹底して行う。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関して肯定的に評価した企業が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	A 評価 98% (昨年 = 100%) 【実習日誌研修担当者評価】 とてもよくできた 79% できた 19%	ほとんどの企業から、実習について良い評価が得られた。インターンシップでは31社57名が参加し、長期企業研修では10社で20名が参加した。勤務態度はどの企業からも良い評価を得ている。今後も生徒が自信を持って実習に臨むことができるよう、きめ細かい事前指導を行っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒に向けた地元企業に関する情報発信、地元企業への就職を推進してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	1,2年生に対し地元企業についての理解を深めてもらうため、見学、説明会など企画を考えていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成【心を育てる生徒指導】	① 生徒指導課と教職員、公安委員で「朝のあいさつ運動」に取り組む。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができています」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 70% (昨年 = 72%) 【生徒の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 24% ややあてはまる 46%	今年度も朝のあいさつ運動は、前期・後期の計2回、公安委員会と生徒会役員を中心に実施したが、肯定的な回答をする生徒の割合はほとんど変化がなかった。次年度は、挨拶運動を全教職員での取り組みとし、さらに多くの生徒にも自主的な参加を促し、普段から挨拶の出来る生徒が多い学校を目指していく。
	② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 評価 78% (昨年 = 84%) 【生徒の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 24% ややあてはまる 54%	今年度のボランティア週間は、実行したボランティアの内容に加えて、生徒自身の心情や周りの反応にも着目させて実施した。それにより、自己有用感を感じさせることができた。一方で、後期のボランティア週間は、様々な学校行事と重なり、十分な効果が得られなかったため、実施の時期を再検討する必要がある。今後ともボランティアの意義や思いやりの心などについて考えさせていくとともに、様々なボランティアや地域貢献活動に取り組みさせていきたい。
	③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	保護者へのアンケート調査において、生徒が朝食を食べて登校すると答える保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 評価 84% (昨年 = 83%) 【保護者の学校評価(12月)】 よくあてはまる 64% ややあてはまる 20%	前年度の最終評価と比較して83%から84%と微増した。朝食をしっかりと食べるという意識が保護者、生徒に浸透し、生活習慣として確立されてきている。今後も朝食を食べる意識向上に向け、取り組みを継続、工夫していきたい。
	④ 朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、頭髪服装を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけしているとする肯定的評価が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	A 評価 95% (昨年 = 94%) 【教員の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 40% ややあてはまる 55%	今年度は、職員の生徒に対しての声かけが少し上昇した。今後も、ホーム担任だけでなく、全職員が率先垂範し、生徒たちに対して、気持ちのよい積極的なあいさつ、声かけを徹底していくよう、働きかけていきたい。
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 95% (昨年=97%) 【教員の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 38% ややあてはまる 57%	今年度も6月と10月に全校生徒対象に生徒指導アンケートを行い、気になる生徒にはホーム担任が個人面談を行った。加えて、生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くし、ホーム担任・部活動顧問等が必要に応じて面談を行っている。今後も、毎日の昼休みの学年団による校内巡視と生徒の動向把握を継続し、いじめの未然防止と早期対策に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校外における生徒の服装について、乱れが見られるため対応をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	特別活動課の協力のもと企画・立案し、全職員で学校の活性化、規範意識の醸成に取り組んでいく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 保護者・地域から信頼される教育活動の推進【自信を持たせ、経験を積ませる】	① 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができていくとする肯定的評価が A 70%以上 B 60%以上 C 55%以上 D 55%未満	A 評価 70% (昨年 = 70%) 【生徒の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 23% ややあてはまる 47%	機械システム科では昨年に引き続き震災により破損した徳田地区ゴミステーションの製作に取り組み、地域貢献活動を行った。総合学科では農業系列が地域の方々や施設と連携した活動や近隣の幼稚園・保育園の園児とのサツマイモ収穫体験、ビジネス系列は、今年度は放課後児童クラブとの交流を行い、絵本の読み聞かせや絵本バック等を寄贈を行った。また、演劇科は被災地での手話パフォーマンス、県内中学校での上演を行い、好評を得た。これらの活動を軸に、今後は地域との連携や関わりを通じた実践的な学習を学科全体でさらに進め、生徒の自己存在感や自己肯定感を高められるよう努めていきたい。
	② 生徒が意欲的に取り組むことのできる部活動を展開していく。	部活動の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 78% (昨年 = 77%) 【生徒の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 57% ややあてはまる 21%	多くの生徒が部活動に加入するものの、生徒自身の課題意識の持ち方、意欲の減退が部活動の停滞につながっている。生徒にはスモールステップを設定し、目標をクリアすることで得られる達成感を意欲向上に結びつけたい。また、指導者は積極的な研修受講や他校との情報交換、交流を通して自己の指導力の向上を図っていく。部活動の情報発信にも努めていきたい。
	③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができていくとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 88% (昨年 = 94%) 【教員の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 17% ややあてはまる 71%	1回目の評価(84%)より向上したが、昨年度末の評価より評価は下がった。今年度は総合学科ビジネス系列の課題研究のグループが「本校のホームページ作成・更新」について取り組み、部活動のページをわかりやすく作成してくれた。今後生徒が作成した動画や表紙ページを掲載、更新する予定である。これからも学校行事の様子や3つの学科の活動内容、部活動の内容など、多種多様な情報発信に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	成果発表会を中学生が見られるようにしてほしい。ホームページにある学校紹介について生徒からの発信を検討してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	今後生徒が作成した動画や表紙ページを掲載、更新する予定で、これからも学校行事の様子や3つの学科の活動内容、部活動の内容などの情報発信に努めていきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 教職員の働き方改革の推進	① 教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にすることを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 86% (昨年 = 88%) 【教員の学校評価 (12月)】 よくあてはまる 24% ややあてはまる 62%	昨年比2%の減少でB評価となった。9月から11月にかけて行事、部活動大会が多く、若手教員を中心に部活動指導、検定補習等、業務での時間外勤務が増加した。業務の標準化や教職員各自による定時退校日2日の設定を行っているが、今後は業務を勤務時間内で終わらせるタイムマネジメント意識の向上を図り、ライフワークバランスのとれた働き方ができるよう努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	専門高校としての魅力発信、ラジコンカーなどの大会参加と並行して働き方改革を推進してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	教育の質を担保していく中で、業務の計画的な進め方ができるタイムマネジメント意識向上を図っていく。			

